

信州大学農学部附属 AFC 演習林の SGEC 森林認証取得に関する記録

三木敦朗*・白澤紘明**

*信州大学学術研究院農学系

**信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター

はじめに

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センターは、手良沢山ステーション演習林および西駒ステーション演習林・桂小場試験地の計479.74haにおいて、一般社団法人緑の循環認証会議（Sustainable Green Ecosystem Council。以下、「SGEC」とする）の森林認証（森林経営：Forest Management（FM））を取得した（2016年2月26日）。以下、認証取得の経緯とその後の活動について報告する。

認証取得の経緯

今回の SGEC 森林認証の取得は、長野県内の林業関係団体で構成される長野県森林整備加速化・林業再生協議会（森林資源部会。事務局は一般社団法人長野県林業コンサルタント協会）が実施する「林業再生推進活動事業」の「国際的森林認証のモデル普及・啓発活動と合法認証システムの検証」によって、演習林が県内のモデル地区の一つとして設定されたことが契機であった。長野県下では森林認証の普及が他県と比べても遅れているため、モデル地区を設けて申請についての情報を得て、森林所有者や木材製造産業等へ普及することが目的とされた。演習林はモデル地区としてモデル申請（書類の準備等）をおこない、それをもとに本申請に移行した。

2015年12月18日に認証機関（一般社団法人日本森林技術協会）に対して本申請をおこない、2016年1月14～15日に初回審査（書類審査・計画書等の説明、現地審査、講評等）を受けた。その結果、2月26日に認証を取得した。森林認証（FM 認証）を取得した大学演習林としては、宇都宮大学に次いで2例目（ただし過去に取得し、失効したものを含まない）であった。森林認証（FM 認証）は長野県下では3ヵ所目である。他2者は全国規模の事業体の社有林の一部が県内にあるケースであり、演習林は県内事業体としては1ヵ所目の取得となった。

受付日 2017年1月4日

受理日 2017年1月27日

なお、申請にあたっては、所有、森林計画、管理・経営、生物多様性などに関する書類を改めて整理する必要があった。森林に関するこれまでの様々な記録や内規を集め、認証基準に照らし合わせると、補足や修正の必要な部分が明らかになった。今回とくに整理を要したのは、①作業指針や生物多様性管理指針（従来の演習林編成教育研究計画にも記載されている事項ではあるが）、②演習林利用者に生物多様性のモニタリングに協力してもらうための調査カード、③認証材の分別表示方法などである。水系・河畔林・災害発生位置などの図面にも、クリーンアップしたものがあつた。

また、審査の過程で、審査員からは4点の「懸念」事項と数点の検討期待事項の指摘が得られた。これらは2016年12月2日の定期審査（年次審査）で確認をうけている。

認証取得後の活動

モデル地区として申請の補助を受けていること、また大学の本来の機能の点からも、認証取得の経験を情報発信することが求められる。現在までに実施している主な活動を列挙すれば、下記の通りである。

新聞報道

- 「信大の演習林森林認証取得 伊那の2ヵ所管理を評価」『信濃毎日新聞』2016年4月23日付。
- 「森林認証 県内で広がる 信大先導、生産者や市場も続く」『日本経済新聞』（長野経済面）9月24日付。

報告・情報発信

講義や実習・演習内容に盛り込んだほか、対外的にも様々な機会で開催している。

- 「長野県における森林認証制度を考える会」（塩尻市、長野県森林整備加速化・林業再生協議会主催）での報告（2016年3月14日）
- 根羽村との連携協議会（根羽村）での報告（3月16日）
- 「2016年西日本林業経済研究会」（手良沢山演習林）での研究者・他大学学生に対する報告（7月1日）

- 認証取得団体の視察受入および情報交換（8月下旬）
- 「第3回信州大学見本市 知の森総合展2016」（上田市）での県民への情報発信（8月30日）
- 「第18回（2016年）森林に学ぶネットワーク研修会」（手良沢山演習林）での県内森林ボランティア団体への情報発信（10月30日）
- その他、高校模擬講義、構内見学・オープンキャンパスでの情報発信など。

出 荷

県内に森林認証材の流通・加工に必要な CoC (Chain of Custody) 認証を取得する事業者が増え、流通体制が整ったことから、認証材としての出荷を開始した。市場で非認証材と区別するために、木材に「信大 SGEC」という極印を打つことで対応している（上図）。長野県森林組合連合会伊那木材センターでは、第981回素材公売・開設55周年記念市（11月）から認証材として取り扱われている。



まとめ

演習林が森林認証を取得したことによって、信州大学農学部での教育が、持続可能な森林管理・経営の世界的水準を具体的にふまえたものになることが期待される。学生がモニタリングなど実務的なことながらも含めて学習・体験できること、森林管理・経営の内容について第三者の視点からチェックを受けられること、演習林の情報発信のあり方が発展することなどが直接的な効果といえよう。

また、最近では新しい変化も生じている。SGECが国際認証 PEFC (Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes) と相互認証したこともあり、改めて森林認証が広まりつつある。ISO20400や2020年東京オリンピックなどで「持続可能な調達」が目指されるようになり、合法伐採木材利用促進法（クリーンウッド法）など違法伐採対策もようやく進みはじめた。

長野県内でも、農学部演習林の認証取得以降、FM・CoCともに認証取得が増えた。演習林の今後の動向は周囲から注目され続けるであろうし、農学部は森林管理・経営の上で一つの範を示していく必要があると考える。

Acquisition of the SGEC forest certification by research forests of AFC, Shinshu University

Aturo MIKI* and Hiroaki SHIRASAWA**

*Faculty of Agriculture, Shinshu University

**Education and Research Center of Alpine Field Science, Faculty of Agriculture, Shinshu University